

第2回小田川合流点付替え事業環境影響評価フォローアップ委員会 議事要旨

日時：平成31年3月13日(水) 10:00～12:00

場所：岡山河川事務所 2F 大会議室

議事要旨：

1. 事業前倒しに伴う環境保全措置等の点検結果について

委員：動物について、当初の施工計画では施工中の範囲以外に逃げ場があったが、多工区同時施工することにより逃げ場がなくなった、といった影響はないのか。また、外来種についても多工区同時施工により拡散防止の対応が難しくなるというような影響は生じないのか。

事務局：当初の施工計画においても、動物の逃げ場を確保しながら施工を進めるという想定はしていなかった。多工区同時施工とは説明したが、エリア内で工事車両が移動している経路、状況は大きく変わらないため、予測評価結果への影響はないと考えている。また、外来種についても、現状の貯水池は河川と接続していないため、施工方法による外来種の拡散への影響はないと考えている。

委員：貯水池内の埋め土を台船施工に変更することによる、水質への影響はどうか。

事務局：柳井原貯水池の水位を T.P.2.9m まで低下させることについて変更はない。評価書時において、土砂投入による SS の発生原単位は、グラブ運船相当の大きい値を用いて予測しており、台船施工によっても SS 濃度の予測値が上昇することはなかった。

委員：水位低下工は8月にも実施とのことだが、高梁川本川の流量に対し、柳井原貯水池からの排水量がどれくらいになるか。希釈の大きさを表現した方が分かりやすい。

事務局：酒津地点の平水流量は 40m³/s 程度であり、柳井原貯水池からの排水は処理施設の排水量であり相当の違いがあると想定している。(詳細を確認した結果希釈は 106 倍程度)

委員：大気質(粉じん等)の予測値が南山集落だけなぜ多いのか。また、散水は南山だけ必ず行うと読めるが、散水は全工事で必ず実施すべきである。

事務局：工程の見直しにより、南山周辺における重複作業が評価書時点よりも特に増加しているため、予測値が大きくなっている。なお、評価書で散水は保全措置として、全工事を対象として行うこととしている。

委員：評価書よりも騒音・振動の予測値が小さい地点もあるが、評価基準を下回るから保全措置はやらないようにみえるため、粉塵と併せて分かりやすい表現にして欲しい。なお、新技術の積極的な採用を検討してほしい。

委員：アサザの保護のために行っている仮移植の面から考えると、5年に工期短縮されることはむしろプラスである。一方、法面緑化は工期短縮により施工時期と緑化に適した季節がかみ合う回数が減ることになるので、慎重に計画して欲しい。

委員：デコイによるサギ類のねぐら誘導がなかなかうまくいかず心配していたが、結果

的に事業影響を受けないカワウのねぐら（参考資料-1の③）に移動してくれているのでよかった。

委員：小田川の樹木伐採により水中根等を隠れ家としていた水生動物の生息状況への影響を懸念している。水際の樹木が伐採されると水温やDOへの影響が懸念されるため。現在の小田川の水質調査地点2箇所を、もう少し増やしたほうがよいのではないか。

事務局：今回の審議内容である事業工程の見直しによる水生生物への影響は評価書時点と変更がないと考えているが、小田川の伐採による動植物への影響については、今後モニタリングを行っていく。

2. 各専門部会の検討結果報告

委員：未風化岩の掘削法面について、有機物（Ca）で中和することだが、中長期的にみると効果がなくなる可能性があるため、未風化岩部は緑化しない（コンクリート吹付など）ことも選択肢としてあるのではないか。

事務局：酸性水が発生する可能性はあるが、周辺の岩盤の状況を踏まえると急激に酸性化が進むとは考えておらず、緑化で対応可能と考えている。

委員：降雨等により自然に発生する酸性水に対して、人為的に中和することは違和感がある。水が入らないようにする方法もあるのではないか。

事務局：中和は初期緑化のための対策で、永続的に中和処理することは考えていない。

委員：酸性水によるアンカーへの腐食対策として、ドレーンで地下水を低下させる方法も考えられる。

委員：クリークの事例は多くあるが、堆積等により取水ができず、水が流れなくなっている例も多くあるため、取水構造は注意して検討してほしい。

3. その他

事務局：次回、第3回委員会は、夏頃を予定している。

以 上